

学科到達目標

1. 与えられた設計条件の下で、様々な問題を解決し、バランス良くデザイン・提案する能力を身につける。
2. 建築分野に必要な知識や技術を理解し、それらを応用して問題を解決する能力を身につける。
3. 建築図面を理解し、設計する能力を身につける。ドローイングやCAD による作図技術や模型製作技術を習得する。
4. 設計意図や内容を十分に伝達できる説明力とプレゼンテーション力を身につける。
5. 日本や世界の文化や歴史を多面的に認識する能力を身につける。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般
建築学科	本4年	学科	専門
建築学科	本4年	学科	専門
建築学科	本5年	学科	専門
建築学科	本4年	学科	専門
建築学科	本4年	学科	専門
建築学科	本5年	学科	専門

科目区分	選択	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後						
一般	選択	国語 I 甲A	01121	履修単位	1	2																			山口 比砂	必履修	
一般	選択	国語 I 乙A	01122	履修単位	1	2																			江口 啓子	必履修	
一般	選択	地理A	01124	履修単位	1	2																			高橋 清吾	必履修	
一般	選択	基礎解析 I A	01125	履修単位	2	4																			高村 明 金坂 尚礼 吉澤 毅	必履修	
一般	選択	線形数学 I A	01126	履修単位	1	2																			筒石 奈央	必履修	
一般	選択	物理 I A	01127	履修単位	1	2																			榎本 貴志	必履修	
一般	選択	化学 I A	01128	履修単位	1	2																			今 徳義	必履修	
一般	選択	英語講読 I A	01130	履修単位	1	2																			寺嶋 宏樹	必履修	
一般	選択	英語会話A	01131	履修単位	1	2																			山田 慶太,M. Bodell, R. Fontaine,E. Okrand	必履修	
一般	選択	英語文法・作文A	01132	履修単位	1	2																			川島 彩那,遠藤 颯馬	必履修	
一般	選択	保健体育 I A	01134	履修単位	1	2																			近藤 雅哉	必履修	
一般	選択	現代社会A	01135	履修単位	1	2																			北野 孝志	必履修	
一般	選択	国語 I 甲B	01221	履修単位	1		2																		山口 比砂	必履修	
一般	選択	国語 I 乙B	01222	履修単位	1		2																		江口 啓子	必履修	
一般	選択	地理B	01224	履修単位	1		2																		高橋 清吾	必履修	
一般	選択	基礎解析 I B	01225	履修単位	2		4																		高村 明 金坂 尚礼 吉澤 毅	必履修	
一般	選択	線形数学 I B	01226	履修単位	1		2																		筒石 奈央	必履修	
一般	選択	物理 I B	01227	履修単位	1		2																		榎本 貴志	必履修	
一般	選択	化学 I B	01228	履修単位	1		2																		今 徳義	必履修	
一般	選択	英語講読 I B	01230	履修単位	1		2																		寺嶋 宏樹	必履修	



豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築設計製図 I A	
科目基礎情報						
科目番号	51122		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	4		
教科書/教材	「建築家の自邸に学ぶ設計製図」水谷俊博・水谷玲子著 (彰国社) ISBN978-4-395-32123-0 C3052 「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 (丸善株式会社) ISBN 4-621-07509-8/プリント					
担当教員	三島 雅博					
到達目標						
(ア)製図用具を正しく使える。(イ)線の種類を使い分け、設計図面用の文字を書くことができる。(ウ)建築製図の表示記号を理解し、表すことができる。(エ)配置図・平面図・立面図・断面図の意味と描き方を理解している。(オ)木造住宅の平面図・立面図・断面図から空間概要を3次元的に把握できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目(ア)	製図用具を正しく使える。	概ね製図用具を正しく使える。	製図用具を正しく使うことができない。			
評価項目(イ)	線の種類を使い分け、設計図面用の文字を書くことができる。	線の種類を使い分け、設計図面用の概ね文字を書くことができる。	線の種類を使い分け、設計図面用の文字を書くことができない。			
評価項目(ウ)	文字・寸法の記入を理解し、実践できる。	概ね文字・寸法の記入を理解し、実践できる。	文字・寸法の記入を理解し、実践することができない。			
評価項目(エ)	建築製図の表示記号を理解し、表すことができる。	概ね建築製図の表示記号を理解し、表すことができる。	建築製図の表示記号を理解し、表すことができない。			
評価項目(オ)	図面の種類別の各種図の配置を理解している。	概ね図面の種類別の各種図の配置を理解している。	図面の種類別の各種図の配置を理解していない。			
評価項目(カ)	図面の縮尺について理解し、図面の作図に反映できる。	概ね図面の縮尺について理解し、図面の作図に反映できる。	図面の縮尺について理解し、図面の作図に反映できていない。			
学科の到達目標項目との関係						
<p>学習・教育到達度目標 A 社会の変化・要請を捉えて、問題を分析・抽出し、様々な条件の下、専門知識・技術を用いて、問題を解決するもしくは新たな提案を発する能力を修得する。</p> <p>学習・教育到達度目標 B2 建築分野の必要な基礎的知識や技術を修得する。</p> <p>学習・教育到達度目標 C2 図面判読能力および、設計意図・内容を十分に伝達できる説明力とプレゼンテーション力（記述・作図技術や模型製作技術）の討議能力を修得する。</p> <p>本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ② 基礎学力 本校教育目標 ③ 問題解決能力</p>						
教育方法等						
概要	建築設計製図の基礎的事項の説明を行い、作図の練習・木造住宅設計図（1/100程度の平面図・立面図・断面図等）のトレースを通して、建築物の表現方法を学び、設計製図の基礎を培う。					
授業の進め方・方法						
注意点	提出期限を厳守すること。特例を除き、期限以降の提出は一切認めない。特例の場合は診断書などを提出すること。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
選択必修1						
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
必履修						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	ガイダンス、製図用具の使用方法 線・文字の練習：直線・円、実線・破線・一点鎖線	上記 (ア)			
	2週	線・文字の練習：直線・円、実線・破線・一点鎖線	上記 (ア) (イ)			
	3週	線・文字の練習：直線・円、実線・破線・一点鎖線	上記 (ア) (イ)			
	4週	表示記号の練習：材料構造表示記号・平面表示記号・引き出し線・寸法線	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ)			
	5週	表示記号の練習：材料構造表示記号・平面表示記号・引き出し線・寸法線	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ)			
	6週	表示記号の練習：材料構造表示記号・平面表示記号・引き出し線・寸法線 木造住宅の基礎知識	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)			
	7週	木造住宅設計図のトレース（配置図）	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)			
	8週	木造住宅設計図のトレース（平面図）	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)			
	2ndQ	9週	木造住宅設計図のトレース（平面図）	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)		
		10週	木造住宅設計図のトレース（平面図）	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)		
		11週	木造住宅設計図のトレース（立面図）	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)		
		12週	木造住宅設計図のトレース（立面図）	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)		
		13週	木造住宅設計図のトレース（断面図）	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)		
		14週	木造住宅設計図のトレース（断面図）	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)		
		15週	図面&レポート提出・講評 実測しての寸法体験	上記 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)		
		16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	設計・製図	製図用具の特性を理解し、線の描き分け（3種類程度）ができる。	4	
				建築の各種図面と図面の尺度・縮尺について理解し、図面の作図に反映できる。	4	
				建築製図通則に基づき、製図記号を判別、適用できる。	4	
評価割合						
		課題		レポート	合計	
総合評価割合		90	0	10	100	
基礎的能力		90	0	10	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	情報基礎
科目基礎情報					
科目番号	51125	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科	対象学年	1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教材ファイル (教材プリント) / 参考書: 國友義久「ファーストステップITの基礎」近代科学社				
担当教員	森上 伸也				
到達目標					
(ア)電子メールの基礎的な仕組みを理解し、メールの読み書きができる。 (イ)ネットワーク社会でのセキュリティや著作権、エチケット、ネットワーク社会の脅威について理解している。 (ウ)コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる。 (エ)情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。 (オ)コンピュータに関する論理演算の基礎を理解し、簡単な演算ができる。 (カ)同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在していることを知っている。 (キ)任意のプログラミング言語を用いて、簡単なアルゴリズムを実装できる。 (ク)ワープロ・表計算・プレゼンテーション用ソフトを使用して、簡単な資料を作成できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	ネットワーク、電子メールの基本的な仕組みを理解しており、第三者に対して説明ができる。	ネットワーク、電子メールの基本的な仕組みを理解している。	ネットワーク、電子メールの基本的な仕組みを理解できていない。		
評価項目(イ)	ネットワーク社会でのセキュリティや著作権、エチケット、脅威について理解し、第三者に説明できる。	ネットワーク社会でのセキュリティや著作権、エチケット、脅威について理解している。	ネットワーク社会でのセキュリティや著作権、エチケット、脅威について理解できていない。		
評価項目(ウ)	コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を理解し、実践的に使用できる。	コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を理解し、使用できる。	コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を理解し、使用できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C1 実験・実習を通して、計測技術やデータ分析法、報告書作成能力を修得する。 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力					
教育方法等					
概要	スライド資料に基づく説明と、演習室PCを用いた実習に分けられる。近年の技術者には熟達した情報リテラシーが要求される。そこでセキュリティに配慮して情報技術を活用し、課題解決のための基本的なアルゴリズムを考え、実装できるようになることを目標として、本講義でインターネットおよび情報セキュリティに関する基礎的な仕組みを理解し、情報を適切に収集・処理・発信するための方法を学ぶ。またハードウェアに関する基礎的な知識を理解し、コンピュータに必要な論理演算について学ぶ。				
授業の進め方・方法					
注意点	電子メールの確認環境として、学生個人の持つスマートフォンを推奨しており、その設定方法も内容に含まれるが、家庭による環境 (機能制限、不所持等) や機種、従来からの利用状況による差が大きいため、授業内で完了しない事も想定されている。(スマートフォンで電子メールを読めるようにすることは必須ではない)				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
必履修					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	一回目用PP資料「情報リテラシー／モラル、ICTSEC演習室の使い方」	ICTSEC演習室PCの起動・ログイン方法、およびMicrosoft365へのサインインの仕方を理解する。	
	2週	二回目用PP資料「SNSの注意点、電子メールの書き方」	SNSの使い方 (主に注意点)、およびメールのシステムを理解する。		
	3週	三回目用PP資料「ネットワークの基礎、情報セキュリティ」	情報ネットワークについての技術説明、および情報セキュリティについての説明ができる。		
	4週	四回目用PP資料「情報化社会の功罪の「罪」の方、情報モラルテストと宣誓書」 ※情報リテラシーのミニテストと宣誓書への署名	著作権と関連する技術、情報セキュリティを脅かす技術、その他の便利な情報システムとその功罪について理解する。		
	5週	インターネットを利用した情報収集の仕方 (蔵書検索、文献検索、シラバス閲覧など)	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。		
	6週	コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識 (コンピュータシステムの基本構成)	コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる。同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在していることを知っている。		
	7週	コンピュータに関する論理演算 (進数、基数変換、論理演算など)	コンピュータにおける論理演算の基礎を理解し、簡単な演算ができる。		
	8週	文章作成ソフトウェアの活用 (タイピング練習、文章の体裁など)	ワープロ・表計算・プレゼンテーション用ソフトを使用して、簡単な資料を作成できる。		
	2ndQ	9週	表計算ソフトウェアの活用 (演算、Excel 関数の使い方など)	ワープロ・表計算・プレゼンテーション用ソフトを使用して、簡単な資料を作成できる。	
	10週	プレゼンテーションソフトウェアの活用 (資料の作り方、アニメーションなど)	ワープロ・表計算・プレゼンテーション用ソフトを使用して、簡単な資料を作成できる。		
	11週	プログラミング言語とプログラミングの基礎	任意のプログラミング言語を用いて、簡単なアルゴリズムを実装できる。		

	12週	プログラミングの基礎 (フローチャート、基本形など)	任意のプログラミング言語を用いて、簡単なアルゴリズムを実装できる。
	13週	プログラミングの基礎 (変数、演算など)	任意のプログラミング言語を用いて、簡単なアルゴリズムを実装できる。
	14週	プログラミングの基礎 (条件判定など)	任意のプログラミング言語を用いて、簡単なアルゴリズムを実装できる。
	15週	総まとめ	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	社会の情報化の進展と課題について理解し説明できる。	3	前5
			代表的な情報システムとその利用形態について説明できる。	3	前7
			コンピュータの構成とオペレーティングシステム(OS)の役割を理解し、基本的な取扱いができる。	3	前6
			アナログ情報とデジタル情報の違いと、コンピュータ内におけるデータ(数値、文字等)の表現方法について説明できる。	3	
			情報を適切に収集・取得できる。	3	
			データベースの意義と概要について説明できる。	3	
			基礎的なプログラムを作成できる。	3	前1,前2
			計算機を用いて数学的な処理を行うことができる。	3	
			基礎的なアルゴリズムについて理解し、任意のプログラミング言語を用いて記述できる。	3	
			同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在していることを説明できる。	3	
			情報の真偽について、根拠に基づいて検討する方法を説明できる。	3	
			情報の適切な表現方法と伝達手段を選択し、情報の送受信を行うことができる。	3	
			情報通信ネットワークの仕組みや構成及び構成要素、プロトコルの役割や技術についての知識を持ち、社会における情報通信ネットワークの役割を説明できる。	3	前1
			情報セキュリティの必要性を理解し、対策について説明できる。	3	
			情報セキュリティを支える暗号技術の基礎を説明できる。	3	
			情報セキュリティに基づいた情報へのアクセス方法を説明できる。	3	
			情報や通信に関連する法令や規則等と、その必要性について説明できる。	3	
			情報社会で生活する上でのマナー、モラルの重要性について説明できる。	3	
情報セキュリティを運用するための考え方と方法を説明できる。	3				
データサイエンス・AI技術の概要を説明できる。	3				
データサイエンス・AI技術が社会や日常生活における課題解決の有用なツールであり、様々な専門領域の知見と組み合わせることによって価値を創造するものであることを、活用事例をもとに説明できる。	3				
データサイエンス・AI技術を活用する際に求められるモラルや倫理について理解し、データを守るために必要な事項を説明できる。	3				
データサイエンス・AI技術の活用に必要な基本的スキル(データの取得、可視化、分析)を使うことができる。	3				
自らの専門分野において、データサイエンス・AI技術と社会や日常生活との関わり、活用方法について説明できる。	3				

評価割合

	課題	レポート	小テスト	合計
総合評価割合	50	30	20	100
基礎的能力	50	30	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築構法・木質構造
科目基礎情報					
科目番号	51126		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「建築構法」(市ヶ谷出版社) / 適宜配布する資料				
担当教員	竹下 純治				
到達目標					
(ア)建築物の仕組みおよび部材のおさまりを把握している。 (イ)部材の名称およびその定義を正確に覚えている。 (ウ)各種構造形式の原理、特徴および構造について説明できる。 (エ)木造建築の耐久性、耐震・耐風設計について説明できる。 (オ)住宅などの品質確保に関する法律の概要を知っている。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	建築物の仕組みおよび部材のおさまりをほぼ把握している。	建築物の仕組みおよび部材のおさまりを把握している。	建築物の仕組みおよび部材のおさまりを把握していない。		
評価項目(イ)	部材の名称およびその定義を正確に覚えている。	部材の名称およびその定義を覚えている。	部材の名称およびその定義を覚えていない。		
評価項目(ウ)	各種構造形式の原理、特徴および構造について正確に説明できる。	各種構造形式の原理、特徴および構造について説明できる。	各種構造形式の原理、特徴および構造について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B2 建築分野の必要な基礎的知識や技術を修得する。 本校教育目標 ② 基礎学力					
教育方法等					
概要	建築物は様々な自然環境や社会環境の中に存在し、人を包み、その生活を支えるために、各種の材料を用いてつくられている。本講義では、様々な建築物に使われている材料や組み立て方などの構法とその成り立ちについて学ぶ。また、建築の専門教育を学ぶ初期段階の講義であるため、建築を学ぶための基礎固めとして、建築物を構成する用語について学ぶ。				
授業の進め方・方法	基本的には授業で説明した建築物を構成する用語について、翌週の授業開始時に小テストを行い理解度を確認する。従って、毎授業後に復習を行うこと。10週目以降には、重要ポイントを抜粋した課題を行うことにより、知識の定着をはかり理解を深める。				
注意点	授業で学んだ構法を的確に理解していくために、日常生活の中で実際の建築物や建築現場を意識して観察すること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
選択必修6 旧カリ科目名: 建築構法					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
必履修					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	建築構法とは	建築物の仕組みを理解できる	
		2週	建築物への荷重・外力	外力の区別、作用の時間・方向を説明できる	
		3週	鉄骨造	上記(ア) - (ウ)	
		4週	鉄筋コンクリート造	上記(ア) - (ウ)	
		5週	補強組積造・組積造	上記(ア) - (ウ)	
		6週	その他コンクリート造	上記(ア) - (ウ)	
		7週	木造	上記(ア) - (ウ)	
		8週	地業・基礎、屋根	上記(ア) - (ウ)	
	2ndQ	9週	壁	上記(ア) - (ウ)	
		10週	開口部・建具	上記(ア) - (ウ)	
		11週	床・階段	上記(ア) - (ウ)	
		12週	天井・納まり	上記(ア) - (ウ)	
		13週	木造建築の耐久性、耐震・耐風設計	上記(エ)	
		14週	住宅などの品質確保に関する法律	上記(オ)	
		15週	前期のまとめ		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	課題	小テスト	合計	
総合評価割合	70	10	20	100	
基礎的能力	70	10	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築設計製図 I B
科目基礎情報					
科目番号	51222		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	「建築家の自邸に学ぶ設計製図」 水谷俊博・水谷玲子著 (彰国社) ISBN978-4-395-32123-0 C3052、「ラクラク建築模型マニュアル」(エクスナレッジ) / 「誰でもできる住まいの模型1・2・3」(経済調査会)、「図解すまいの寸法・計画事典」(彰国社)等				
担当教員	前田 博子, 亀屋 恵三子				
到達目標					
(ア)木造の1/50程度の平面図を描くことができる。 (イ)ドローイング手法を用いて図面表現することができる。 (ウ)室内の家具や日常の行為に関わる寸法が理解できる。 (エ)展開図を描くことができる。 (オ)平面図と展開図から建築空間を立体として理解し、その模型を作成することができる。 (カ)コンセプトが明確で、図面および模型によって、それを十分に表現できる。 (キ)建築物に関する初歩的なプレゼンテーションができる。					
ルーブリック					
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	木造の1/50程度の平面図を、線の太さを使い分け、正しい寸法のもと、美しく描画することができる。		木造の1/50程度の平面図を、正しい寸法のもとで描画することができる。		木造の1/50程度の平面図を描くことができる。
評価項目(イ)	ドローイング手法を理解し、正しい焦点のもとで、美しく工夫を凝らした建築物を描画できる。		ドローイング手法を理解し、正しい焦点のもとで描画できる。		ドローイング手法を用いて図面表現することができない。
評価項目(ウ)	室内の家具や日常の行為に関わる寸法を理解し、それに沿った正しい大きさを図面と模型で表現することができる。		室内の家具や日常の行為に関わる寸法を理解し、図面と模型で表現することができる。		室内の家具や日常の行為に関わる寸法が理解できない。
評価項目(エ)	平面図と展開図から建築空間を立体として理解し、その展開図と模型を作成することが正しくできる。		平面図と展開図から建築空間を立体として理解し、その展開図と模型を作成することができる。		平面図と展開図から建築空間を立体として理解し、その展開図と模型を作成することができない。
評価項目(オ)	建築物に関する初歩的な伝わりやすいプレゼンテーションができる。		建築物に関する初歩的なプレゼンテーションができる。		建築物に関する初歩的な伝わりやすいプレゼンテーションができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A 社会の変化・要請を捉えて、問題を分析・抽出し、様々な条件の下、専門知識・技術を用いて、問題を解決するもしくは新たな提案を発する能力を修得する。 学習・教育到達度目標 B2 建築分野に必要な基礎的知識や技術を修得する。 学習・教育到達度目標 C2 図面判読能力および、設計意図・内容を十分に伝達できる説明力とプレゼンテーション力(記述・作図技術や模型製作技術) 討議能力を修得する。 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ② 基礎学力 本校教育目標 ③ 問題解決能力					
教育方法等					
概要	前半は次の2つの内容から成る。前期の建築設計製図 I Aで行った木造住宅の1/100のトレースに引き続き、1/50程度の、より詳細を表現する縮尺で平面図を描く。また建築空間表現法であるドローイングの手法を習得する。後半は、初歩的空間設計としてインテリアの設計を行う。ここでは、空間と行為・モノとの関係を理解し、コンセプトに沿って設計することを学び、プレゼンテーション能力を身に付ける。さらにモデリングにおいては、平面図・展開図など2次元表現である図面から模型を作ることによって、2次元の図面を立体的に把握し、図面と実際の建築空間との関係を理解する。				
授業の進め方・方法					
注意点	提出期限を厳守すること。病気などの特例を除き、期限以降の提出は一切認めない。特例の場合は診断書などを提出すること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
選択必修 1					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
必修					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	木造住宅の平面図：1/50程度の縮尺で木造住宅の平面を表現する	木造住宅の建築物の平面図を正しくトレースすることができる	
		2週	木造住宅の平面図：1/50程度の縮尺で木造住宅の平面を表現する	木造住宅の建築物の平面図を正しくトレースすることができる	
		3週	木造住宅の平面図：1/50程度の縮尺で木造住宅の平面を表現する	木造住宅の建築物の平面図を正しくトレースすることができる	
		4週	木造住宅の平面図：1/50程度の縮尺で木造住宅の平面を表現する	木造住宅の建築物の平面図を正しくトレースすることができる	
		5週	木造住宅の平面図：1/50程度の縮尺で木造住宅の平面を表現する	木造住宅の建築物の平面図を正しくトレースすることができる	
		6週	ドローイングの練習：立面図に豊かな線表現を加える	木造住宅の建築物の立面図を正しくトレースすることができる	

4thQ	7週	ドローイングの練習：立面図に豊かな線表現を加える	木造住宅の建築物の立面図を正しく濃淡を付けてトレースすることができる
	8週	生活（モノと行為）と寸法を把握する、展開図の描き方	人体寸法と家具の大きさについて理解し、展開図の描き方を習得することができる
	9週	エスキースおよびチェック：インテリアのイメージ、自分の部屋にどんな家具を配置するか	課題に沿う居室のイメージをグラフィック的に表現することができる
	10週	模型作成：平面図と展開図から部屋と家具の模型を作る、家具のレイアウトの検討	課題に沿う居室の大きさに適した家具を選び、検討することができる
	11週	模型作成：平面図と展開図から部屋と家具の模型を作る、家具のレイアウトの検討	課題に沿う居室の大きさに適した家具の模型を作成することができる
	12週	模型作成：平面図と展開図から部屋と家具の模型を作る、家具のレイアウトの検討	課題に沿う居室の大きさに適した家具の模型を作成することができる
	13週	図面作成：平面図、展開図、家具のサイズ表、コンセプト	作成した模型を展開図や平面図などの図面に落とし込むことができる
	14週	図面作成：平面図、展開図、家具のサイズ表、コンセプト	平面図や模型写真をプレゼンテーションシートにまとめることができる
	15週	図面作成：平面図、展開図、家具のサイズ表、コンセプト	自分の考えたイメージや空間を伝えることができる
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		課題	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	